

評価対象年度 平成23年度

# 政策評価シート

政策 7

「宮城の将来ビジョン」における体系	政策名	7 将来の宮城を担う子どもの教育環境づくり	政策担当部局	教育庁、総務部、保健福祉部、経済商工観光部
			評価担当部局	教育庁

## 政策の状況

### 政策で取り組む内容

宮城の確かな未来を構築していくためには、将来を担う子どもの能力や創造性を最大限に引き出す教育環境の整備が必要である。児童生徒が自らの進路実現に向けて、希望を達成できるような「確かな学力」の定着が求められる中で、我が県の児童生徒の学力は、他県と比較して低迷しているという調査結果もあることから、学力を向上させることが急務となっている。このため、学力の向上に重点を置き、教員の一層の指導力向上や、学校と家庭との連携などにより、確かな学力の定着に向けた実効ある方策を進めるとともに、社会の変化に対応した教育を推進する。また、地域社会との連携のもとで、公共心、健全な勤労観など、将来にわたり社会の中で生きていく力をはぐくみ、児童生徒の道徳心などの豊かな心とたくましく健やかな体の育成を図る。

### 政策を構成する施策の状況

施策番号	施策の名称	平成23年度決算(見込)額(千円)	目標指標等の状況		達成度	施策評価
			現況値(測定年度)			
15	着実な学力向上と希望する進路の実現	6,645,637	児童生徒の家庭等での学習時間(小学6年生:30分以上の児童の割合)(%)	- % (平成23年度)	N	概ね順調
			児童生徒の家庭等での学習時間(中学3年生:1時間以上の生徒の割合)(%)	- % (平成23年度)	N	
			児童生徒の家庭等での学習時間(高校2年生:2時間以上の生徒の割合)(%)	14.4% (平成23年度)	B	
			「授業が分かる」と答える児童生徒の割合(小学6年生)(%)	- % (平成23年度)	N	
			「授業が分かる」と答える児童生徒の割合(中学3年生)(%)	- % (平成23年度)	N	
			「授業が分かる」と答える児童生徒の割合(高校2年生)(%)	45.0% (平成23年度)	A	
			全国平均正答率とのかい離(小学6年生)(ポイント)	- ポイント (平成23年度)	N	
			全国平均正答率とのかい離(中学3年生)(ポイント)	- ポイント (平成23年度)	N	
			大学等への現役進学達成率の全国平均値とのかい離(ポイント)	0.7ポイント (平成22年度)	A	
			新規高卒者の就職決定率の全国平均値とのかい離(ポイント)	-5.6ポイント (平成22年度)	C	
			体験活動やインターンシップ等の参加人数(小学生の農林漁業体験)(人)	37,957人 (平成22年度)	A	
			体験活動やインターンシップ等の参加人数(中学生の職場体験)(人)	21,054人 (平成22年度)	A	
			体験活動やインターンシップ等の参加人数(高校生のインターンシップ)(人)	9,401人 (平成23年度)	B	
16	豊かな心と健やかな体の育成	2,984,644	不登校児童生徒の在籍者比率(小学校)(%)	0.32% (平成22年度)	A	やや遅れている
			不登校児童生徒の在籍者比率(中学校)(%)	3.02% (平成22年度)	B	
			不登校児童生徒の在籍者比率(高等学校)(%)	1.89% (平成22年度)	C	
			不登校児童生徒の再登校率(小・中)(%)	32.7% (平成22年度)	C	
			児童生徒の体力・運動能力調査で過去7年間の最高値を超えた項目の割合(%)	40.2% (平成23年度)	C	
17	児童生徒や地域のニーズに応じた特色ある教育環境づくり	8,645,093	外部評価を実施する学校(小・中・高)の割合(小学校)(%)	89.2% (平成23年度)	A	概ね順調
			外部評価を実施する学校(小・中・高)の割合(中学校)(%)	84.7% (平成23年度)	A	
			外部評価を実施する学校(小・中・高)の割合(高校)(%)	100% (平成23年度)	A	
			学校外の教育資源を活用している高校の割合(%)	54.3% (平成23年度)	C	
			特別支援学校の児童生徒が居住地の小・中学校の児童生徒と交流及び共同学習した割合(%)	25.1% (平成23年度)	C	

※目標指標等の達成度

※決算(見込)額は再掲分含む

- A:「目標値を達成している」
- B:「目標値を達成していないが、設定時の値から見て指標が目指す数値の変化と同方向に推移している、又は現状維持している」
- C:「目標値を達成しておらず、設定時の値から見て指標が目指す数値の変化と逆方向に推移している」
- N:「現況値が把握できず、判定できない」

## 政策評価（原案）

政策の成果	評価の理由・各施策の成果の状況
<p>各施策の成果等から見て、政策の進捗状況はどうなっているか。</p>	<p>・将来の宮城を担う子どもの教育環境づくりに向けて、3つの施策に取り組んだ。</p> <p>・施策15では、目標指標等の状況を見ると、震災の影響により小・中学生を対象とした全国学力・学習状況調査が中止となったため、これに付随する目標指標については実績値を測定することができなかったが、高校生を対象とした授業に対する理解度や現役進学達成率において目標値を上回る成果が見られた。また、新規高卒者の就職決定率では震災による内定取消等により全国平均を大きく下回ったものの、平成24年3月において大幅な改善が図られていることなどから、本施策の進捗状況は概ね順調と判断される。</p> <p>・施策16では、各事業とも効率的に実施され、一定程度の成果があったものの、目標指標等における、不登校児童生徒の在籍者比率が中学校・高校で目標に達しなかったほか、不登校児童生徒の再登校率や児童生徒の体力・運動能力の指標においても目標を下回っていることから、本施策の進捗状況はやや遅れていると判断される。</p> <p>・施策17では、目標指標等の状況を見ると、震災の影響もあってか、学校外の教育資源を活用した高校をはじめ、特別支援学校の児童生徒が地域の小・中学校と交流・共同学習した割合は目標値に達しなかったが、外部評価を実施する学校の割合においては小・中・高全てにおいて目標に達している。また、各事業とも効率的に実施され、一定程度の成果があったことなどから、本取組の進捗状況は概ね順調と判断される。</p> <p>・以上、政策全体としては、施策15及び施策17の進捗状況が概ね順調であることから、本政策の進捗状況は「概ね順調」と考えられる。</p>
<p>【評価】</p>	
<p>概ね順調</p>	

政策を推進する上での課題と対応方針（原案）	※施策の必要性・有効性・効率性の観点からの課題等 ※今年度の対応状況を含む今後の対応方針
<p>・施策15の「着実な学力向上と希望する進路の実現」については、震災の影響により児童生徒を取り巻く環境が大きく変化したことを受け、本県児童生徒の学力低下や高校生の進学・就職状況の悪化が懸念されていることから、授業の改善や教員の指導力向上のための指導主事による学校訪問や教員研修を積極的に行い、児童生徒の確かな学力と学習習慣の定着に繋げていく。また、社会における自己の役割を主体的に考えさせる志教育をこれまで以上に推進するとともに、関係機関との連携強化をより緊密にし、多くの児童生徒が自分の希望する進路に進むことができるよう支援していく。</p> <p>・施策16の「豊かな心と健やかな体の育成」については、震災による環境の変化などに伴い、様々な問題を抱える児童生徒への心のケアを含めた支援や心の復興が必要であることから、教育相談事業の拡充や社会体験、自然体験などの体験活動の充実、志教育の更なる推進に引き続き取り組んでいく。また、本県児童生徒の体力・運動能力が全国と比べて低い状況にあることから、教員の指導技術向上のための研修会を一層充実させるとともに、保護者や教員に対して体力・運動能力向上の大切さについて啓発を図っていく。</p> <p>・施策17の「児童生徒や地域のニーズに応じた特色ある教育環境づくり」については、時代や地域のニーズに応える魅力ある学校づくりを進めていくため、学校が主体的・継続的に取り組んでいくための支援事業を実施し、特に、地域と連携して震災からの復興をテーマに学校づくりを行う学校を積極的に支援する。また、教員の資質向上と優秀な人材の確保に向けた取組の充実のほか、障害のある児童生徒ひとりひとりに応じた指導及び必要な支援を実施するため、特別支援教育に関する理解促進と関係機関との連携体制の強化に取り組んでいく。</p>	